



2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.6 SUGO GT 300km RACE REPORT

SUPER GT 2024 第6戦SUGO レースレポート

開催日：予選 9月21日／決勝 9月22日

開催地：スポーツランドSUGO

予選レポート

9月21日の「スポーツランドSUGO」は、前日からの雨が降り続いていた。台風14号が進路を急変させ、日本海へと流れてきてから熱帯低気圧に。さらに、秋雨前線と合流してしまったために日本中で大雨を降らせていた。「スポーツランドSUGO」に降る雨も、その前線によるものだった。9月1日に決勝が行われる予定だった「第4

戦鈴鹿」も台風により12月に延期っており、9月の「SUPER GT」は2戦とも台風の影響を受けてしまったこととなる。

予選に先立って午前中に行われた公式練習でも雨は降り止むことはなく、マシンが走行可能なギリギリの雨量で降り続いていた。コースアウトによる赤旗提示など



もあったが、雨量が増えたことによる赤旗中断も行われ、雨の走行の厳しさを目の当たりにする公式練習と言えた。

そんな状況下での公式練習の走行で、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」はベストタイムを1分33秒175とし、17番手のタイムを出していた。そして、公式練習が終われば、午後の予選をベストな状態で臨むために、ピットでは最終調整に余念がない。

予選の定刻14時45分になっても雨量は減ることはなく、天候の回復を待って14時55分、15時05分と2度にわたって開始時刻が延期される。しかし、天候回復の見込みは全く立たず、GTAとチーム監督によるミーティングが行われた結果、予選中止が決定された。そのため、スターティンググリッドは公式練習でのタイムで決まることとなり、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」の決勝グリッドはGT300クラスの17番手に決定した。





決勝レポート

決勝日9月22日の天候も午前中は強い雨。ファンの方々と交流するピットウォークや、選手紹介のドライバーズアピランスなどは、激しい雨の中で行われることとなった。

13時30分から予定されていた決勝レースは、天候の回復を待つということで、GTAは最終的には午後のスケジュールを約1時間遅らせた。

強めな雨の中、13時から20分間のウォームアップ走行が行われたが、この走行でGT300マシンの1台がSPコーナー立ち上がりでクラッシュし、赤旗で中断。再開後は、10分間の走行となった。このウォームアップ走行再開あたりから雨は急速に弱まっており、決勝前のスターティンググリッドでは雨は上がっていた。そし



て14時22分にセーフティカーを先導とする、いわゆるSCスタートで決勝が始まった。スタートドライバーは、富林勇佑選手が務める。

セーフティカーは3周を先導するとピットに入り、そこから本当のレーススタートとなる。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」は、4周目から5周目の間に順位をひとつ上げての16位、また7周目までにもうひとつ順位を上げて15位と、順調にラップを重ねていった。

GT500クラスの26周目にGT300マシンの2台が絡むアクシデントが発生し、そのうちの一台がコース脇に止まってしまったことでセーフティカーの導入となった。しかし、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」はこの影響を受けることなく、順位をキープしたままレースを続けていく。

セーフティカーは32周で解除となり、33周目からレースは再開される。この再開でのピットオープンによりピットインを

するライバルが出始めたことにより、34周目には12位まで順位を上げることとなった。

レースも折り返しとなるGT500クラスでの42周目には、GT300のライバルたちもピットインするマシンが多くなってきた。路面状況もドライタイヤが優勢になってくる頃合いであったので、レインタイヤでスタートした9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」もピットインのタイミングをうかがっているところであった。

その42周目に、タイヤ交換を終えたばかりのライバルがアウトラップでコースアウトをしてしまう。42周目を終えた段階でピットイン出来なかったことで翌周以降のピットインとなってしまいが、さらにこのアクシデントで43周目にFCY（フルコースイエロー）となってしまった。FCYとなると、ピット入り口はクローズとなってしまいピットインをすることが出来なくなってしまふ。これにより、タイヤ交換のタイミングがかなり遅れてしまうこととなった。それどころかFCYはセーフティーカーに遷移するという事となり、ピットインのタイミングはさらに遅くなってしまふ。



GT500クラスの49周でセーフティーカーが解除されると、アクシデントのタイミングでピットインできなかったチームは一斉にピットインを行う。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」もGT500の57周目までにはタイヤをドライタイヤに替え、ドライバーを阪口 良平選手に交代し13位でコースへ復帰する。タイヤが温まっていない状態では、後方からやって来た、すでにタイヤ交換したマシンに抜かれてしまい、59周目に15位まで順位を落としてしまふが、タイヤが温まりだした63周目には一台を抜き返し、14位に順位を上げてきたのであった。

その後は大きく順位が変わることなく14位でチェッカーフラッグをくぐった9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」。今シーズン初めてのレインレースを、大きなアクシデントも無く無事完走したのであった。

次戦は「Mercedes AMG GT3」が得意とすると言われる大分県オートポリスでの3時間レース。ポイント獲得へ向け大きく前進していくことだろう。



エントラント代表 神野元樹



天候による予選の中止でのグリッドの決定方法や、レース中のピットインのタイミングなど、初めての出来事や様々な課題などがあった第6戦SUGOとなりましたが、今シーズン初めての雨のレースで無事完走できたのは大きな成果と言えるでしょう。次のオートポリス戦では、今回のデータを踏まえ、あらゆる路面状況でも強く戦って行けるのではないかと考えています。

阪口良平 選手

決勝レースとしては今シーズン初めての雨のレースでしたが、テスト走行では雨のコースも走っていたのでマシンとしての不安はありませんでした。路面がドライになってきたところで細かいトラブルが少し出てしまうことがあったのですが、順位変化がないであろうレース終盤のタイミングであったため、おかげでレース全体への影響はありませんでした。そのトラブルをつぶしていけば、オートポリス戦は戦い抜けると思います。



富林勇佑 選手

17位からスタートしてから、かなり実質的なポジションをあげてくることが出来たのですが、FCYからのSCという流れでタイヤ交換のタイミングを失くしてしまったことが順位を下げる大きな要因だったと思います。雨でも安定して走ることが出来るマシンとなっていたことは大きな成果だと思います。次戦のオートポリスはAMGが得意とすると言われるサーキットなのでいい結果が期待できると思います。

